

野村ターゲットインカムファンド (年3%目標分配型) 愛称：マイ・ロングライフ

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第35期(決算日2024年1月15日)

第36期(決算日2024年3月15日)

第37期(決算日2024年5月15日)

作成対象期間(2023年11月16日～2024年5月15日)

第37期末(2024年5月15日)

基準価額 7,319円

純資産総額 32,175百万円

第35期～第37期

騰落率 3.1%

分配金(税込み)合計 120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、投資信託証券(投資信託の受益証券(投資法人の投資証券を含みます。))を主要投資対象とし、リスク水準を考慮しつつ、年率3%程度の利回り(コスト控除後)を確保することを目指します。また、想定されるポートフォリオの利回り等をもとに各期の目標分配額を定め、その目標分配額の実現を目指して運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時



ホームページ

<http://www.nomura-am.co.jp/>

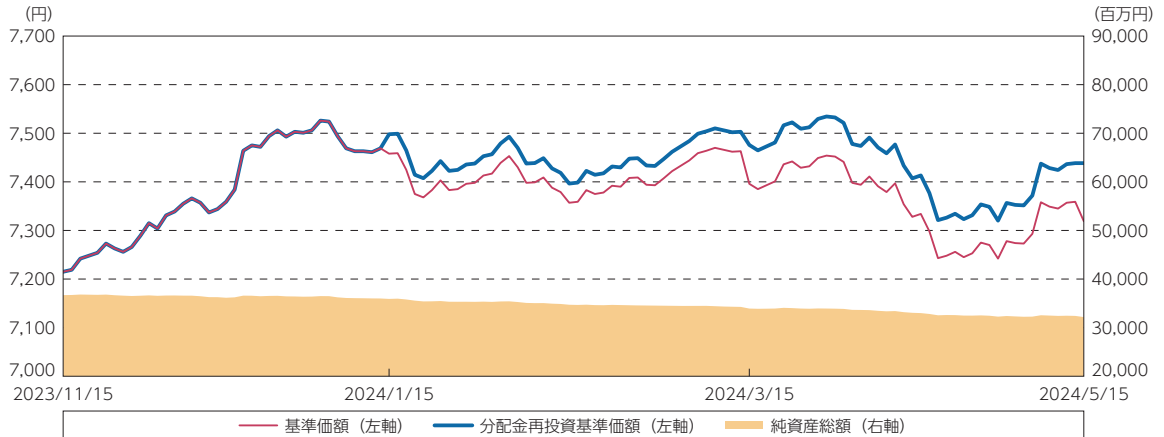
ファンドに関する最新情報をご覧ください。



運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2023年11月16日～2024年5月15日)



第35期首：7,215円

第37期末：7,319円 (既払分配金(税込み)：120円)

騰落率：3.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2023年11月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期間の分配金再投資基準価額の騰落率は+3.10%となりました。

当作成期間は、先進国高配当株ファンド^{※1}や、新興国高配当株ファンド^{※2}、アジアハイ・イールド債券ファンド^{※3}への投資が基準価額を押し上げたことなどが、主な変動要因となりました。

※1 ノムラ・マネージド・マスター・トラスト・グローバル・ディベロップド・マーケット・ハイ・ディビデンド・ストック・プレミアム-JPY-Nクラス

※2 ノムラ・マネージド・マスター・トラスト・グローバル・エマージング・マーケット・ハイ・ディビデンド・ストック・プレミアム-JPY-Nクラス

※3 ノムラ・ファンズ・アイルランドーアジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドーSD JPY ヘッジドクラス

1万口当たりの費用明細

（2023年11月16日～2024年5月15日）

項 目	第35期～第37期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 37	% 0.506	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(18)	(0.246)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(18)	(0.246)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(1)	(0.014)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	1	0.008	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資信託証券)	(0)	(0.001)	
(先物・オプション)	(0)	(0.006)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託証券)	(0)	(0.001)	
(d) その他費用	0	0.004	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	38	0.519	
作成期間の平均基準価額は、7,396円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

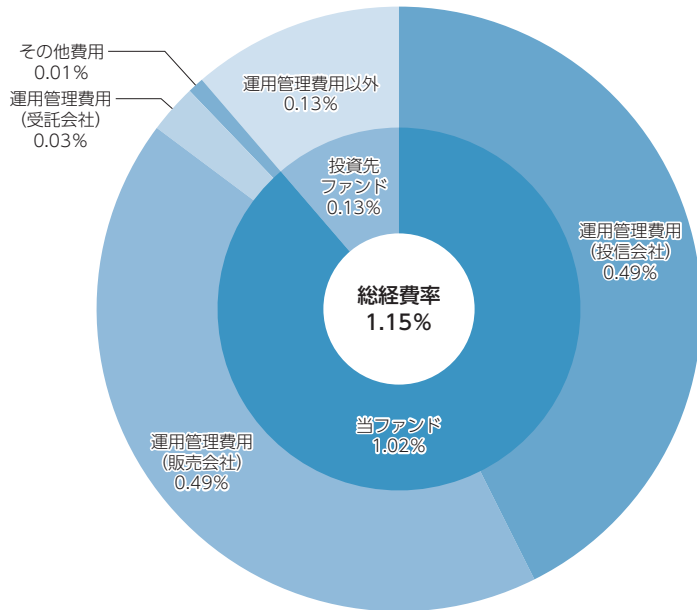
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.15%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.15
①当ファンドの費用の比率	1.02
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	-
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.13

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券等（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドのその他費用には、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託事務の処理に要するその他の諸費用等が含まれます。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

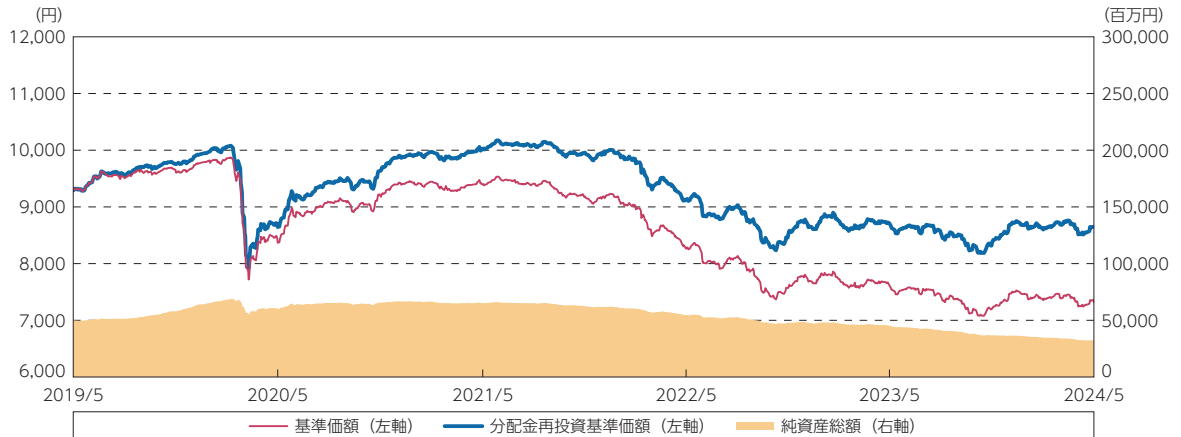
(注) 投資先ファンドの純資産総額等によっては、投資先ファンドの運用管理費用以外の比率が高まる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用は、交付運用報告書作成時点において、委託会社が知りうる情報をもとに作成しています。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2019年5月15日～2024年5月15日）



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2019年5月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2019年5月15日 決算日	2020年5月15日 決算日	2021年5月17日 決算日	2022年5月16日 決算日	2023年5月15日 決算日	2024年5月15日 決算日
基準価額 (円)	9,290	8,368	9,393	8,262	7,614	7,319
期間分配金合計(税込み) (円)	—	300	300	300	280	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 7.0	16.0	△ 9.1	△ 4.4	△ 0.7
純資産総額 (百万円)	49,676	60,044	65,062	54,443	45,140	32,175

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドでは、値動きを比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

投資環境

（2023年11月16日～2024年5月15日）

当作成期間において、世界的に株式市場は上昇しました。債券市場では、先進主要各国の債券利回りが米国を中心に低下（価格は上昇）し、国債市場・事業債市場がともに上昇しました。

当作成期首より、CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を下回ったことや、2023年12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利の据え置きが決定されるとともに、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長が今後の追加利上げの可能性が低いことを示唆したことなどから、市場では利上げサイクルの終了が意識されて、欧米の株価は上昇、債券利回りは低下しました。

2024年以降は、米国において市場予想を上回るCPI上昇率が発表されるなどインフレ圧力の根強さが確認されたほか、米金融当局者による早期の利下げ期待に対するけん制発言などが背景となって債券利回りは上昇（価格は下落）しました。一方、良好な欧米企業の決算を受けて株式市場が上昇したことなどから市場心理が改善しスプレッド（国債に対する利回り格差）が縮小する中で、事業債市場は上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2023年11月16日～2024年5月15日）

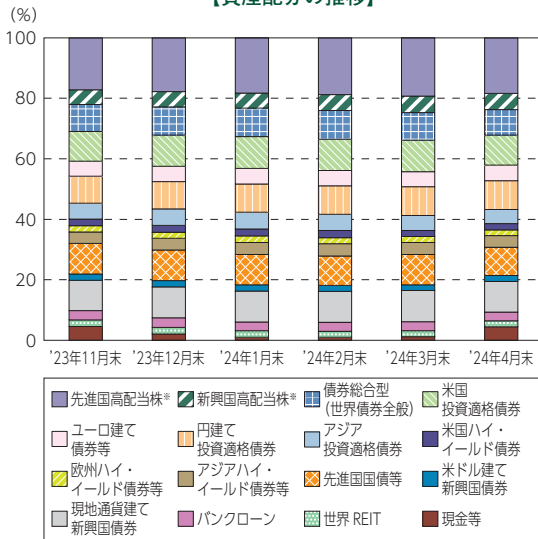
当ファンドは、為替ヘッジ後利回りやリスク水準を考慮しつつ、世界株式（+株式プレミアム戦略^{*4}）、世界債券などに分散投資を行なうことで年率3%程度の利回り（信託報酬・為替ヘッジコスト控除後）の確保を目指すことを基本的な運用方針としています。ただし、市況悪化時には基準価額の大幅な下落を抑えることを目指した運用を行ないます。

当作成期間において、各国の金融当局がインフレ率の減速を背景に引き締めの金融政策を緩和していくことが株式市場の上昇圧力になると考え、株式への投資比率を徐々に引き上げました。債券市場では、債券利回りの上昇がみられたものの、多くの先進国でコロナ禍以降の急激な金融引き締め効果が時間差を伴い現れることにより景気減速がより進行すると考えたことや、各国の金融当局が引き締めの金融政策を緩和していくことが、債券利回りの低下圧力になると考え、世界債券の組入比率を引き続き7割程度としました。リスク水準や利回り（コスト控除後）を考慮しつつ、世界債券の中では、米国投資適格債券ファンド^{*5}や、現地通貨建て新興国債券ファンド^{*6}、先進国国債ファンド^{*7}を中心に分散投資を行ないました。現金等の比率は、市況回復を受け、当作成期首より徐々に引き下げました。4月に市況悪化による損失抑制のため一時的に引き上げる場面もありましたが、当作成期末では2%程度としました。

利回り（信託報酬・為替ヘッジコスト控除後）については、リスク量や市場環境に配慮しながら、中長期の平均で年率3%程度の利回り確保を目指して運用を行なっています。当作成期間におけるポートフォリオの利回り（信託報酬・為替ヘッジコスト控除後）は、2023年11月末時点の年率0.1%程度に対して、2024年4月末には同0.1%程度とほぼ変わらずとなりました。為替ヘッジコスト（短期金利差から生じるコスト）の影響などにより、利回りは中長期的な目安である年率3%程度を下回って推移しています。

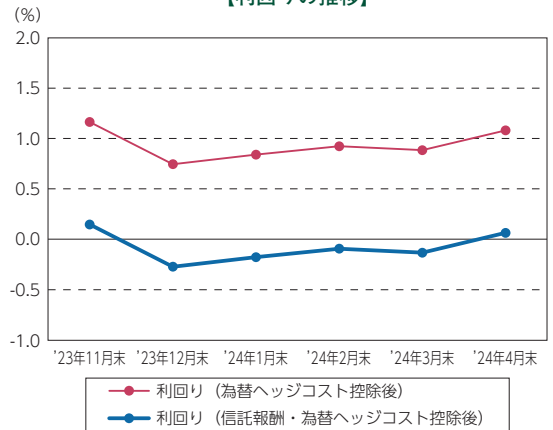
- ※4 株式プレミアム戦略とは、保有する銘柄にかかるコール・オプション（買う権利）を売却し、売却による収入（オプション・プレミアム）の獲得により、パフォーマンス向上を目指す戦略をいいます。一方で、株価が大きく上昇した際には、オプションにおける支払い等が発生するため、損失が発生する場合があります。
- ※5 ノムラ・マネージド・マスター・トラストーESG米国投資適格社債ファンドーJPY-Nクラス
- ※6 ノムラ・ファンズ・アイルランドーエマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・デット・ファンドーSD JPYヘッジドクラス
- ※7 ノムラオールウェザー・ファクターアロケーション戦略マザーファンド

【資産配分の推移】



※株式プレミアム戦略を含みます。

【利回りの推移】



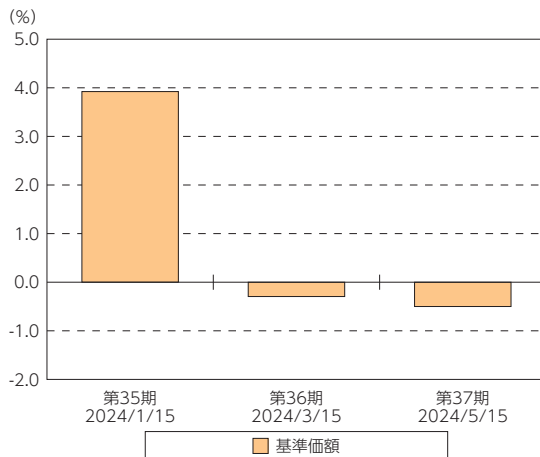
当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年11月16日～2024年5月15日)

当ファンドでは、値動きを比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等を設けておりません。

グラフは、作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2023年11月16日～2024年5月15日)

収益分配金は、信託報酬等の経費や為替ヘッジコスト控除後の利子・配当等収益をもとに勘案して、次表の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第35期	第36期	第37期
	2023年11月16日～2024年1月15日	2024年1月16日～2024年3月15日	2024年3月16日～2024年5月15日
当期分配金 (対基準価額比率)	40 0.533%	40 0.538%	40 0.544%
当期の収益	40	14	40
当期の収益以外	—	25	—
翌期繰越分配対象額	125	100	111

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

【運用方針】

リスク水準を考慮しつつ、年率3%程度の利回り（信託報酬・為替ヘッジコスト控除後）を確保することを目指します。また、想定されるポートフォリオの利回り等をもとに定めた目標分配額の実現を目指して運用を行なうことを基本とします。ただし、市場環境等によっては、基準価額の大幅な下落を抑えることを目指した運用を行なう場合があります。今後も、市場環境を考慮しながら現金比率のコントロールを行なって参ります。また、ポートフォリオの品質向上と一層の分散を図るため、継続的に投資対象ファンドを監視し、必要に応じて投資対象の変更を行ないます。

【投資環境見通し】

実体経済について、2024年から足元までの世界経済は、インフレ率、景気の減速が緩やかなものとなっており、景気後退はしていないとの認識です。市場で予想されている、引き締め的な金融政策下においても経済成長が持続するノーランディング（無着陸）シナリオが実現する可能性を認める一方、これまで注目してきたコロナ禍以降の財政効果の剥落、ならびに金融引き締めによる深刻な景気後退についても引き続き警戒をしています。

世界経済への影響力が最も大きい米国では雇用市場が堅調さを維持するなか、これまで悪化していたISM製造業景況指数などのデータにも底打ちの兆しが見られます。今後インフレ率の減速を確認しながら、予防的な利下げが実施される場合にはリスク資産は新たな経済サイクルへの期待から上昇することが考えられます。

他方で、コロナ禍以降の米国の経済を下支えしてきた超過貯蓄の枯渇や、消費者ローンの延滞率上昇など、リスク資産価格も大きく下落するいわゆるハードランディング（強行着陸）につながりうる景気減速材料も着実に増加しています。ノーランディングシナリオへの見方が強まるほど市場で警戒感が薄れていくことから、こうしたリスクにも備える必要があると考えます。

金融政策については、各国中央銀行の次なる政策変更は利下げであると引き続き予想します。政策金利は既に景気を刺激も抑制もしないと定義される中立金利より高い水準で維持されているとみられる、実体経済への影響が蓄積されていると考えられます。そのため、今後の経済指標によっては、政策金利を据え置く期間が長引く可能性はあるものの、利上げを再開する可能性は非常に低いと予想します。

以上のように、景気減速を見込むため、インカムゲイン（利子収入）を積み上げることが重要だと考えています。そのため、インカムゲインを積み上げやすい事業債を中心とした世界債券市場への現状程度の投資比率を維持する方針です。今後も、利子や配当などのインカム収益を積み上げながら、投資価値を冷静に見極めつつ投資機会を追求していく方針です。

引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

該当事項はございません。

2024年11月5日より、ファンドの設定解約の申込締切時間は以下の記載のとおり変更となる予定です。

原則、午後3時30分までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。

（販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。）

当ファンドの概要

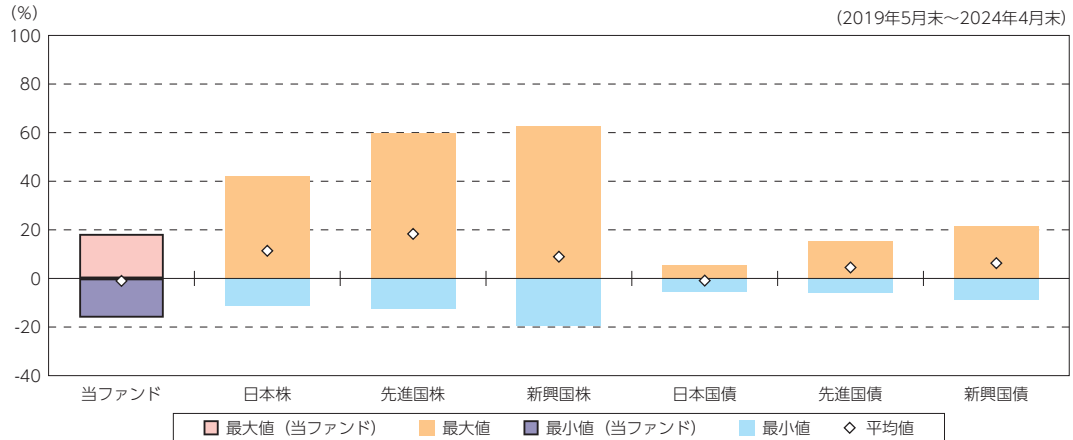
商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2018年1月26日以降、無期限とします。
運用方針	<p>世界各国の債券等および世界各国の株式等を投資対象とする投資信託証券（投資信託の受益証券（投資法人の投資証券を含みます。）。以下同じ。）に投資します。また、世界各国のREIT（不動産投資信託証券）および企業向け貸付債権（バンクローン）を投資対象とする投資信託証券に投資する場合があります。</p> <p>リスク水準を考慮しつつ、年率3%程度の利回り（コスト控除後）を確保することを目指します。また、想定されるポートフォリオの利回り等をもとに各期の目標分配額を定め、その目標分配額の実現を目指して運用を行なうことを基本とします。</p> <p>※当ファンドにおいて、コストとは主に当ファンドの信託報酬や実質的な為替ヘッジコストを指します。</p> <p>投資する投資信託証券は、組入外貨建資産について為替変動リスクの低減を図ることを基本とするもの、もしくはこれらに類するものを中心としますが、効率的に為替変動による収益を獲得する目的で外国為替予約取引等を活用する投資信託証券に投資を行なう場合もあります。</p>
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	投資信託証券を主要投資対象とし、リスク水準を考慮しつつ、年率3%程度の利回り（コスト控除後）を確保することを目指します。また、想定されるポートフォリオの利回り等をもとに各期の目標分配額を定め、その目標分配額の実現を目指して運用を行なうことを基本とします。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準に関わらず原則として利子・配当等収益等の範囲内で分配します。ただし、基準価額水準等によっては、分配対象額の範囲内で、売買益等を分配する場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	18.3	42.1	59.8	62.7	5.4	15.3	21.5
最小値	△ 16.1	△ 11.4	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	△ 1.0	11.4	18.3	8.9	△ 0.9	4.5	6.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年5月から2024年4月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

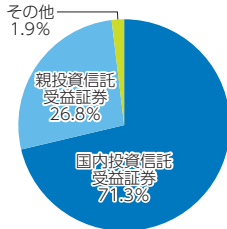
組入資産の内容

（2024年5月15日現在）

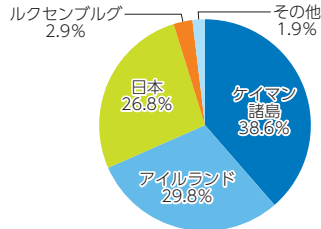
○組入上位ファンド

銘柄名	第37期末
	%
ノムラ・マネージド・マスター・トラストーグローバル・ディベロップド・マーケット・ハイ・ディビデンド・ストック・プレミアム-JPY-Nクラス	18.7
ノムラ・マネージド・マスター・トラストーESG米国投資適格社債ファンドーJPY-Nクラス	10.2
ノムラ・ファンズ・アイルランドーエマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・デット・ファンドーSD JPYヘッジドクラス	10.2
その他	58.9
組入銘柄数	15銘柄

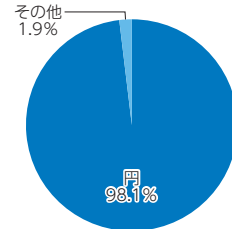
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とまらない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第35期末	第36期末	第37期末
	2024年1月15日	2024年3月15日	2024年5月15日
純資産総額	35,914,809,449円	33,928,658,379円	32,175,449,595円
受益権総口数	48,158,481,393口	45,872,461,347口	43,961,023,729口
1万口当たり基準価額	7,458円	7,396円	7,319円

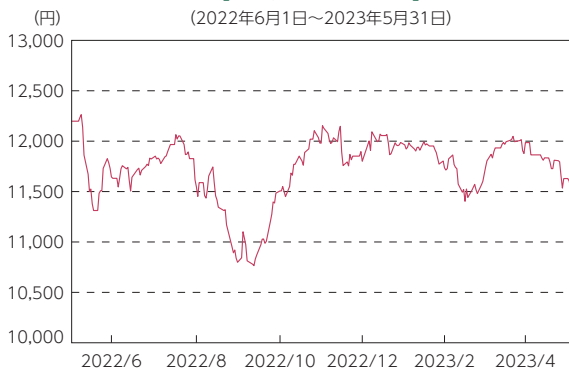
(注) 当作成期間中（第35期～第37期）における追加設定元本額は409,945,491円、同解約元本額は7,303,700,686円です。

組入上位ファンドの概要

ノムラ・マネージド・マスター・トラスト・グローバル・ディベロップド・マーケット・ハイ・ディビデンド・ストック・プレミアム-JPY-Nクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したもとして計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年6月1日～2023年5月31日)

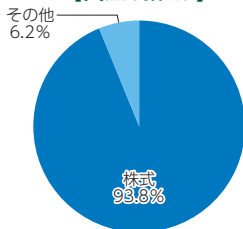
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

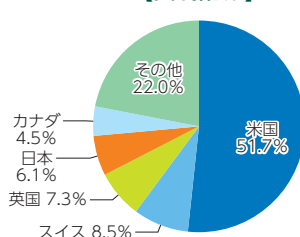
(2023年5月31日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	JOHNSON & JOHNSON	ヘルスケア	米ドル	米国	3.1
2	BROADCOM INC	情報技術	米ドル	米国	3.0
3	PEPSICO INC	生活必需品	米ドル	米国	3.0
4	NESTLE SA-REG	生活必需品	スイスフラン	スイス	2.8
5	COCA-COLA	生活必需品	米ドル	米国	2.8
6	ABBVIE INC	ヘルスケア	米ドル	米国	2.7
7	MERCK & CO INC	ヘルスケア	米ドル	米国	2.5
8	CISCO SYSTEMS INC	情報技術	米ドル	米国	2.5
9	ROCHE HLDG-GENUS	ヘルスケア	スイスフラン	スイス	2.5
10	PROCTER & GAMBLE CO	生活必需品	米ドル	米国	2.4
	組入銘柄数		98銘柄		

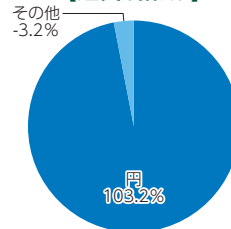
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) JPY-Nクラスは、JPY-Nクラスに属する外貨エクスポージャー (JPY-Nクラスにおける為替の評価損益を含まない) を主要国通貨換算した額とほぼ同額程度の主要国通貨売り円買いの為替取引を行いません。

ノムラ・マネージド・マスター・トラストーESG米国投資適格社債ファンドーJPY-Nクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】

(2022年1月1日～2022年12月30日)



(注) 分配金を分配時に再投資したもとして計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月30日)

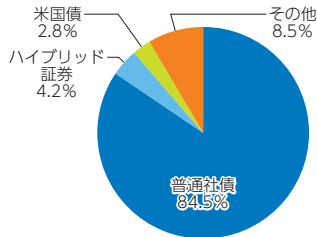
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

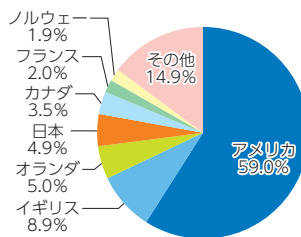
(2022年12月30日現在)

銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 DEUTSCHE TEL FIN 8.7500% 15/06/30	通信	米ドル	オランダ	1.3%
2 US TREASURY N/B 3.3750% 15/08/42	政府	米ドル	アメリカ	1.3%
3 BAYER US FIN 4.3750% 15/12/28 144A	生活必需品	米ドル	アメリカ	0.9%
4 MORGAN STANLEY FRN 18/10/33	金融	米ドル	アメリカ	0.8%
5 AMER ELEC PWR 5.9500% 01/11/32	公益事業	米ドル	アメリカ	0.8%
6 US TREASURY N/B 4.1250% 15/11/32	政府	米ドル	アメリカ	0.8%
7 GE HEALTHCARE 5.6500% 15/11/27 144A	生活必需品	米ドル	アメリカ	0.8%
8 GENERAL MILLS IN 5.2410% 18/11/25	生活必需品	米ドル	アメリカ	0.8%
9 CATERPILLAR FI 4.9000% 17/01/25 MTN	工業	米ドル	アメリカ	0.8%
10 DNB BANK ASA FRN 09/10/26 144A	金融	米ドル	ノルウェー	0.8%
組入銘柄数		237銘柄		

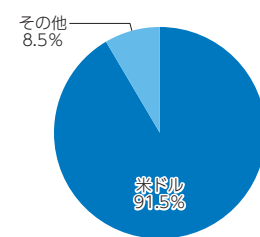
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

ノムラ・ファンズ・アイルランドーエマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・デット・ファンドーSD JPYヘッジドクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

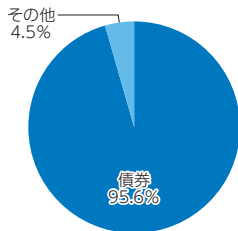
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

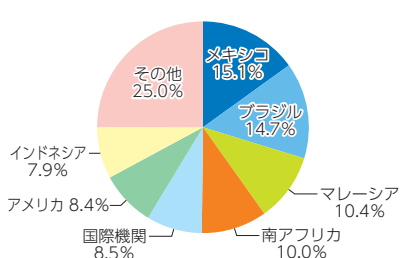
(2022年12月31日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	Mexican Bonos, 7.750%, 29/05/31	国債	メキシコペソ	メキシコ	11.5
2	United States Treasury Bill ZCP, 28/03/23	国債	米ドル	アメリカ	8.4
3	Brazil Notas do Tesouro Nacional Serie F, 10.000%, 01/01/31	国債	ブラジルレアル	ブラジル	7.2
4	Malaysia Government Bond, 4.254%, 31/05/35	国債	マレーシアリンギ	マレーシア	7.0
5	Indonesia Treasury Bond, 8.750%, 15/05/31	国債	インドネシアルピア	インドネシア	5.7
6	Export-Import Bank of Korea, 2.800%, 03/03/24	準ソブリン	人民元	韓国	4.8
7	Republic of South Africa Government Bond, 6.500%, 28/02/41	国債	南アフリカランド	南アフリカ	4.7
8	European Investment Bank, 2.750%, 25/08/26	国際機関	ユーロ	国際機関	4.2
9	Republic of South Africa Government Bond - CPI Linked, 3.450%, 07/12/33	国債	南アフリカランド	南アフリカ	3.1
10	Cooperatieve Rabobank UA ZCP, 05/04/31	金融	南アフリカランド	オランダ	2.7
	組入銘柄数		64銘柄		

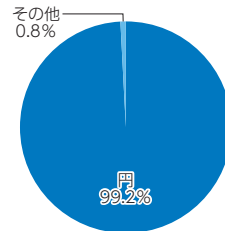
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

○MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国の J.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMSLLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）